

キーワード：メディアコントロール、自律、自分事、マイルール、正しい情報

I 研究について

1 情報モラル教育に関しての本校の状況

本校で実施したインターネット利用についてのアンケートでは、家でのインターネット利用状況について、6割強の児童が「動画視聴」と答え、「オンラインゲーム」も4割を超えている。児童がインターネットを利用する際のルールがある家庭は全体の55%に留まっており、さらにその内容についてもほとんどが、利用する時間や時間帯についての約束事であり、インターネットについての知識や危険性への理解は、保護者においても希薄と言わざるを得ない。

本町、並びに本校教職員は、ICTを活用した授業づくりに熱心に取り組んでいる。一方で、児童のICT利用にあたってのリテラシーやモラルの育成については取組が十分ではない。今のところ大きなトラブルを経験している児童はいないが、情報社会・インターネットの特性等についての知識、情報社会における正しい判断や望ましい態度の基礎を培うことについての実践・研究を中心に行うこととした。また、校内研修では、文部科学省の資料や静岡大学教育学部准教授塩田真吾先生の資料を中心に研修を行い、本校教職員の指導力向上を目指すこととした。

2 実践概要（授業実践、授業研究会等）

時 期	実 施 内 容
5月28日	第1回 校内研修 「LINEの楽しいコミュニケーションを考えよう」
6月21日	第2回 校内研修 「情報モラルアンケート結果から本校の実態把握について」
7月 2日	保護者対象の講演会の実施 講師 新地町教育委員会指導主事 千葉 正俊 様
8月20日	新地町教育研究会第1回教職員セミナー 講師 静岡大学教育学部 学術研究員 安永 太地 様
9月10日	第1回 校内授業研究会 第5学年 道徳 指導助言者 医療創生大学 教授 中尾 剛 様
9月24日	ふくしま「未来の教室」授業充実事業第1回地区別研究協議会で発表
10月 1日	第3回 校内研修「ICT活用発表会に向けて」
12月 3日	第2回 校内授業研修会 第3学年 学級活動 指導助言者 医療創生大学 教授 中尾 剛 様
2月10日	ふくしま「未来の教室」授業充実事業第2回地区別研究協議会で発表
2月16日	第4回 校内研修「実践のまとめ」について

3 「情報モラル教育」に関する学校課題の把握

研究校としての実践に取り組むにあたって、本校の「情報モラル教育」の課題を捉える必要から、本年6月に「インターネットについてのアンケート」を実施した。

アンケートの結果から、以下のようなことが課題として挙げられる。

(1) インターネットの長時間利用

平日に日常的に1時間以上インターネットを使用する児童は全校児童の30.2%、休日においては、平日と比較して41.2%に上昇する。6.3%の児童は休日に3時間以上インターネットを使用している。

(2) インターネット利用実態の把握の難しさ

家庭で児童が自由に使用できるスマートフォンの所持率は17.5%、タブレットの所持率は20.6%である。しかし、家でインターネットを利用する際によく使う機器を調べると、全校児童の49.2%がゲーム機を使用してインターネットを使用している。

ここから、実態把握を進めるに当たって、どのくらいゲームをしているのか、動画視聴しているのかなどといった、正確な利用実態の把握の難しさが確認された。

(3) 家庭でのルールの課題

インターネットを利用するときの家庭のルールが「ある」と答えた児童は55.6%に対して、「ない」と答えた児童は31.7%であった。また、ルールが「ある」と答えた児童の家庭でのルールを調べると、そのほとんどが「〇時間以内」など、利用時間や時間帯についてのものであった。

さらに、児童がインターネットを利用する上でのリテラシーやモラル上の危険性に関わる約束事を決めている家庭はごく一部であることが分かった。

(4) 危険性に関する知識や認識の不足

インターネット利用について家庭でルールを決めた方がよいと回答した児童は84.4%おり、ほとんどの児童はルールが必要だと考えていることが分かる。また、「どんなルールが必要だと考えるか」という質問には、75.6%の児童が「利用時間を決める」と回答していることから、インターネット利用時間についての決まりが必要だと考えていることが分かる。

しかし、「インターネットの心配な点や危険なことはどんなことだと思うか」という質問には、ほとんどが「個人情報の漏洩」もしくは「知らない人との接触」に関することを回答している。

ここから、「必要だと考えるルール」と「心配な点」との乖離がみられ、インターネット使用に関わる危険性に関しても、自分事としては捉えられてはいない状況であり、表面的な知識に留まり理解が不足していることが分かる。

(5) 大人の知識・理解の不足

アンケートの分析を進める中で、児童が使用している「機器」や「ゲーム」・「サイト」の性能・性質（使わせる上での危険性等）について、大人の側（教員・保護者）の理解が追いついていないということを感じさせられた。

Ⅱ 研究の実際について

1 校内での実践

(1) 第1回校内研修（5月28日）

「カード分類比較法」の教材を活用し、インターネットでのトラブルの要因になりがちな「感じ方の違い」を教員間で体験的に学んだ。

(2) 第2回校内研修（6月21日）

本校児童を対象に実施した「インターネットについてのアンケート」の結果の集計と分析〔前掲 I-3〕を通じて本校児童の実態把握と、今後の本校における「情報モラル教育」で取り組むべき内容について検討した。

(3) 新地町教育研究会第1回教職員セミナー（8月20日）

①講師 静岡大学教育学部 学術研究員 安永 太地 様

②講話 「予防的アプローチによる情報モラル教育」

カード分類比較法や「リスクのグラデーション発想」による危機予測の力を高めることをねらいとした教材を体験しながら、1人1台端末時代における情報モラル教育の指導のポイントについて研修を深めた。【右写真】



(4) 保護者対象の講演会の実施（7月2日）

①講師 新地町教育委員会 指導主事 千葉 正俊 様

②講演 「メディアと正しく付き合うために～大人の意識・保護者の連携～」

現在インターネットに接続できる機器が多様化していることや犯罪・トラブルに子どもたちがインターネットを介して巻き込まれる事例の紹介を通じて、保護者の責務について問題提起がなされた。また、「フィルタリング」、「ペアレンタルコントロール」、「レーティング（年齢制限）」といった技術的な対策について学びながら、子どもを守るために家庭でどのようにルールをつくり、また見直していくかについて講演いただいた。講演の最後には、親自身も利用を自制することや大人がインターネットの知識を深め子どもの適切な利用を考えていくことの重要性が説かれた。【右写真】



(5) 校内授業研究会後の講話（9月10日、12月3日）

①講師 医療創生大学 教授 中尾 剛 様

②講話 「GIGAスクール構想が目指す目標と課題～情報モラルのアプローチ～」

多くの事例を基に様々な観点から、ネット社会の光と影について分かりやすく説明していただいた。

GIGAスクール構想ではICTの活用をとおして、主体的・対話的な学びが実現され、能動的な能力がより高められることが期待される。それと同時に、高度情報化社会を生き抜くためにメディアリテラシー教育と情報モラル教育も進め、自ら考え、判断する力を高めていくことの重要性について講話をいただいた。【右写真】



2 校内授業研究会での実践等






(1) 第5学年 総合的な学習の時間「メディアとの付き合い方を考える」の実際

【 授業テーマ 】	
自分の家庭生活を振り返ることを通して、インターネット利用に関わる問題を自分事として考えることができる授業	
学習内容・活動	授業の考察
<p>1 アンケートの結果や普段の生活を振り返ることで実態を把握し、本時の課題を捉える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>そのルール、どうすれば守ることができるのか。</p> </div>	<p>◆ 友達のインターネット利用の様子や、将来的に悪影響が生じる危険性がある利用の仕方について理解し、自分事として課題を捉えることができた。</p> 
<p>2 ルールを守ることができない状況を小集団で考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 利用時間、時刻 ○ 利用場所 ○ その他のルール 	<p>◆ 自分の経験を話すことで、共感しながら聞き合ったり、ルールを守ることができない原因を考え、分類・整理することができた。</p> 
<p>3 どうすればルールが守りやすくなるのかを班で話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 自分でできる方法 ○ 誰かに協力してもらう方法 	<p>◆ ルールが守れない原因が明確になり、整理されたことで、ルールを守るための具体的な方法が考えやすくなった。</p> 
<p>4 各班で話し合ったことをまとめ発表する。</p>	<p>◆ 各班の考えを全体で共有した。他の班の考えを聞いて自分にもできそうな方法を知り、マイルール作りへの意欲をもつことができた。</p> 
<p>5 自分の生活に合ったマイルールを作る。</p> 	<div style="border: 2px solid black; padding: 10px;"> <p>児童が考えたマイルール</p> <ul style="list-style-type: none"> ◎ ゲームは1日30分以内にして、タイマーをセットする。 ◎ ゲームや動画を見るのは午後5時から6時まで。 ◎ 宿題をすませてからゲームをする。 ◎ ゲームや動画よりも家の手伝いをやる。 ◎ 家の人に時間がきたら、声をかけてもらう。 </div>

(2) 第3学年 学級活動「その情報、しんじていいの?」の実際

【 授業テーマ 】

違った内容の資料を比較し、違う理由を考えることを通して、正しい情報の見分け方について理解する授業

学習内容・活動	授業の考察
<p>1 絵本の内容から、本時の課題を把握する。</p> <p>インターネット上の情報は、みんな正しいのかな。</p>	<p>◆ 絵本「七ひきのねずみ」をクイズ形式で読み聞かせ、その謎解き体験から一つの情報だけでは不確かであることを実感し、本時の課題を把握することができた。</p> 
<p>2 2つの資料を比較し、内容が違っている理由を考える。</p> <p>テーマ① 「あんこ地蔵祭りを見に行こう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料A 8月23日 ・資料B 8月お盆後の日曜日 <p>テーマ② 「鹿狼山の由来について調べよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料A 言い伝え ・資料B アイヌ語から ・資料C 伝説ではなくアイヌ語から 	<p>◆ グループごとにどちらかのテーマを分担した。テーマはどちらも自分たちの地域に関するものであり興味をもって考えることができた。</p>  <p>◆ どの資料も信頼性の高い情報源であるのに、なぜ内容に違いが生じているのかを子どもたちなりに様々な視点で予想した。</p> 
<p>3 正しい情報か見分ける方法を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 作成された日付はいつか ○ だれが作ったのか ○ 何を参考にしたのか ○ 連絡先はあるのか <p>4 学習のまとめをする。</p> <p>インターネットの情報には、正しくないものもあるので、いくつかのサイトで調べて、正しい情報を選ぶようにする。</p>	<p>◆ グループで考えたことを共有し、見分け方を一般化した。それに基づいて資料を再度確認し、理解を深めることができた。</p>  <p>◆ 3年生の発達段階や実態を考慮し、内容を精選し、焦点化する必要があった。</p> 
	<p>◆ 1つの情報だけでは正確性に欠けることを、体験を通して理解することができた。</p> <p>◆ 児童から「今後の学習や生活の場面で生かしていきたい。」という感想が聞かれた。</p>

(3) 研究協議会の様子



2つの研究授業のテーマは、「いかに子ども自身が『自分事』として問題を捉え、解決に向かおうとする態度や能力を高めることができるか」であった。

その手立てとして、1回目の研究授業では、①実態調査結果の活用、②自分の生活の振り返り、③問題解決方法の共有化を、2回目の研究授業では、①絵本の謎解き体験、②身近な事象の導入、③実際の資料の活用を行った。これらの手立ては、児童の興味・関心を高めるとともに、児童自らが様々な問題に関わっていることをより強く実感することができて、大変有効であった。情報モラル教育を進めるにあたり、今後も子ども自身が「自分事」として問題を捉えることができるかが大きなテーマになるものとする。自ら考え、判断、行動できる「自律した子ども」の育成を目指し、さらに研究を進めていきたい。

Ⅲ 成果と課題について

1 成果

- 2回の校内授業研究会において、講師の中尾剛先生(医療創生大学)には、授業参観と事後研究会での指導助言、教員対象の講演をいただいた。教員の情報モラル教育についての理解が深まるとともに、研究の方向性を見いだすことができた。
- 情報モラル教育を推進する上で、家庭との連携は不可欠である。千葉正俊先生(本町教育委員会指導主事)による保護者対象の講演では、家庭におけるメディアとの向き合わせ方を考えていただく貴重な機会であった。聴講した保護者は理解を深めることができた。
- 校内教員対象に、「カード分類比較法」「リスクのグラデーション」等のワークショップを通じた研修を実施した。教師自身が実感を伴いながら「情報モラル教育」の意義や効果について理解を深めることができた。

2 課題

- 学校全体で効果的に情報モラル教育を進めていくことができるように、取り組む際の「ねらい」や「扱う内容」等について、発達段階を考慮し系統性を整理しながら各学年の教育活動に位置付け、計画的に実施していく必要がある。
- 情報モラル教育をより効果的なものにしていくためには、子どものそばにいる教員や保護者などの大人自身が、現在のネット社会の実態を理解し、インターネットの知識をもつことが必要である。今後も教員、保護者対象の研修を実施していきたい。